

令和2年青森県花き生産状況

農産園芸課

1 概況

令和2年の本県花きの生産状況は、作付面積が87ヘクタール（前年比94%）で、前年に比べ5.7ヘクタールの減少、出荷数量が1,462万本・万鉢（同85%）で、前年に比べ約258万本・万鉢の減少、出荷額が11億5300万円（同88%）で、前年に比べ約1億5,200万円の減少となった。また、栽培農家数は659戸（同95%）と、前年に比べ37戸減少した。

これらの要因として、高齢化や労働力不足のほか、野菜等への作付転換などが考えられる。

表1 生産状況

（単位：ha、万本・万鉢、百万円、戸、%）

年次 \ 項目	作付面積	出荷数量	出荷額	栽培戸数
令和2年	87	1,462	1,153	659
令和元年	93	1,721	1,306	696
令和2年/令和元年	94	85	88	95

【農産園芸課調べ】

（注）数値は小数点以下を四捨五入しているため、各数値の比と表の値が一致しない場合がある。

2 作付面積

（1）切花類

切花類の作付面積は約62ヘクタール（前年比94%）で、前年より約4ヘクタール減少した。

品目別では、キク類（大中輪ギク、小ギク、スプレーギク）が約16ヘクタールと最も多く、花き全体の19パーセントを占めた。次いで、サクラ（枝物）とトルコギキョウが約8ヘクタール、ヒマワリが約4ヘクタール、バラとアルストロメリアが約2ヘクタールの順となった。

デルフィニウムは前年より増加し、ヒマワリ、バラ、アルストロメリアは前年並、キク類、サクラ（枝物）、トルコギキョウ、カンパニュラは減少した。

（2）鉢もの類

鉢もの類の作付面積は約8ヘクタール（前年比89%）で、前年より約1ヘクタール減少した。

品目別では、シクラメンが約1.8ヘクタールで最も多く、次いでポットローズが約1ヘクタール、サクラソウが約0.3ヘクタールとなった。

（3）苗もの類

苗もの類の作付面積は約3ヘクタール（前年比77%）で、前年より約1ヘクタール減少した。

表2 作付面積

(単位：a, %)

区別	年次	令和2年		令和元年		2/元	
		面積	割合	面積	割合		
切花類		6,206	71	6,608	71	94	
主要品目	キク類	1,643	19	1,787	19	92	
	サクラ(枝物)	815	9	880	9	93	
	トルコギキョウ	771	9	815	9	95	
	ヒマワリ	372	4	369	4	101	
	バラ	189	2	189	2	100	
	アルストロメリア	182	2	181	2	101	
	カンパニュラ	98	1	117	1	84	
	ストック	108	1	106	1	102	
	カーネーション	99	1	102	1	97	
	宿根カスミソウ	75	1	101	1	74	
	アスター	92	1	101	1	91	
	リンドウ	99	1	93	1	106	
	デルフィニウム	100	1	83	1	120	
	ユリ類	53	1	54	1	99	
	グラジオラス	53	1	41	0	130	
	その他	1,457	17	1,589	17	92	
	鉢もの類		789	9	889	10	89
	主要品目	シクラメン	184	2	210	2	87
ポットローズ		100	1	101	1	99	
サクラソウ		27	0	76	1	36	
苗もの類		307	4	400	4	77	
花木類		162	2	162	2	100	
芝類		400	5	406	4	99	
球根類		835	10	810	9	103	
合計		8,699	100	9,274	100	94	

【農産園芸課調べ】

 : 青森県花き振興方策の重要品目及び地域振興品目

(注) 数値は小数点以下を四捨五入しているため、各数値の合計値と合計欄の値が一致しない場合がある。

3 出荷額

(1) 切花類

切花類の出荷額は6億9,400万円(前年比91%)で、前年より7,200万円減少した。

品目別では、キク類(大中輪ギク、小ギク、スプレーギク)が2億3,700万円(同95%)と最も多く、全体の21パーセントを占めた。次いで、トルコギキョウが1億6,200万円(同105%)、アルストロメリアが1億300万円(同91%)、バラが4,700万円(同89%)、ヒマワリが2,000万円(同137%)、カンパニュラが1,700万円(同67%)の順となった。

(2) 鉢もの類

鉢もの類の出荷額は3億300万円(前年比89%)で、前年より3,700万円減少した。

主な品目では、ポットローズが9,000万円と最も多く、シクラメンが5,200万円、サクラソウが2,400万円となった。

(3) 苗もの類

苗もの類の出荷額は1億100万円（前年比96%）で、前年より400万円減少した。

表3 出荷額

（単位：百万円，%）

区別	年次		年次		2/元	
	令和2年	割合	令和元年	割合		
切花類	694	60	766	59	91	
主要品目	キク類	237	21	250	19	95
	トルコギキョウ	162	14	155	12	105
	アルストロメリア	103	9	113	9	91
	バラ	47	4	53	4	89
	カンパニュラ	17	1	25	2	67
	アスター	7	1	25	2	27
	ヒマワリ	20	2	15	1	137
	宿根カスミソウ	16	1	14	1	117
	ストック	10	1	14	1	72
	デルフィニウム	5	0	7	1	75
	リンドウ	6	1	5	0	124
	カーネーション	6	1	6	0	106
	サクラ（枝物）	7	1	5	0	142
	ユリ類	2	0	3	0	72
	グラジオラス	2	0	2	0	104
	その他	45	4	74	6	61
鉢もの類	303	26	340	26	89	
主要品目	ポットローズ	90	8	90	7	100
	シクラメン	52	5	60	5	87
	サクラソウ	24	2	31	2	78
苗もの類	101	9	105	8	96	
花木類	1	0	47	4	2	
芝類	30	3	37	3	81	
球根類	25	2	10	1	249	
合計	1,153	100	1,306	100	88	

【農産園芸課調べ】

：青森県花き振興方策の重要品目及び地域振興品目

（注）数値は小数点以下を四捨五入しているため、各数値の合計値と合計欄の値が一致しない場合がある。

4 地域別の生産状況

(1) 作付面積

地域別では、中南地域が約25ヘクタールで全体の29パーセントを占め、次いで東青地域が約21ヘクタール、西北地域が約19ヘクタール、三八地域が約16ヘクタール、上北地域が約4ヘクタール、下北地域が約0.5ヘクタールとなった。

(2) 出荷額

地域別では、中南地域が4億800万円で最も多く、次いで三八地域が2億6,400万円、西北地域が2億4,000万円、上北地域が1億9,700万円となった。

上北地域では、作付面積は約4ヘクタールと少ないものの、ポットローズ等の鉢ものの生産により単位面積当たりの出荷額は多くなっている。

表4 地域別生産状況

(単位:a、%、百万円)

地域	作付面積					出荷額			主な品目
	令和2年	割合	令和元年	割合	2/元	令和2年	令和元年	2/元	
東青	2,149	25	2,257	24	95	42	36	116	キク、トルコギキョウ、カーネーション、デルフィニウム、スターチス
中南	2,486	29	2,717	29	92	408	431	95	アルストロメリア、トルコギキョウ、バラ、キク、サクラソウ
三八	1,645	19	1,766	19	93	264	376	70	キク、トルコギキョウ、カンパニュラ、シクラメン、サクラソウ
西北	1,944	22	2,033	22	96	240	235	102	キク、トルコギキョウ、シクラメン、宿根カスミソウ、デルフィニウム
上北	422	5	446	5	95	197	225	87	ポットローズ、観葉植物、カランコエ、キク、バラ、ポインセチア
下北	54	0.6	55	0.6	98	3.1	2.8	112	トルコギキョウ、キク、アスター、ペゴニア
合計	8,699	100	9,274	100	94	1,153	1,306	88	

【農産園芸課調べ】

(注) 数値は小数点以下を四捨五入しているため、各数値の合計値と合計欄の値が一致しない場合がある。

5 バケット出荷の状況

切花の鮮度保持のためのバケット出荷は、J A花き部会を中心に実施されている。

品目別では、トルコギキョウはバケットによる出荷量が48万7千本で約43パーセントで実施されており、キク類は36万7千本で約10パーセント、カンパニュラは34万3千本で約99パーセント、デルフィニウムは3千本で約7パーセント、ヒマワリは7万6千本で約20パーセントなどとなった。

表5 切花類のバケット出荷状況 (単位：a、千本、%)

品 目	施設・露地栽培計			
	作付面積	出荷数量	バケット出荷量	バケット出荷率
トルコギキョウ	771	1,121	487	43.4
キク類	1,643	3,544	367	10.4
カンパニュラ	98	347	343	98.8
デルフィニウム	100	41	3	7.3
ヒマワリ	372	373	76	20.4
その他	416	791	212	26.8
合 計	3,400	6,217	1,488	23.9

【農産園芸課調べ】

(注) 数値は小数点以下を四捨五入しているため、各数値の合計値と合計欄の値が一致しない場合がある。

6 J Aの花き生産の状況 (J A全農あおもり取扱状況)

(1) 花き取扱状況

J A全農あおもりの令和2年花き取扱量(県内J Aの全取扱数量)は、約619万本(前年比88%)と前年より約84万6,000本減少した。

また、販売額は5億2,000万円(同92%)と前年より4,600万円減少した。

(2) 販売額割合

県出荷額に対するJ A全農あおもりの販売額のシェアは45パーセントと前年より2パーセント増加した。

表6 J A全農あおもりの取扱状況

(単位：千本、百万円、円、%)

項目 年次	農協数	数量	販売額	単価	県出荷額	シェア
令和2年	8	6,193	520	84	1,153	45
令和元年	8	7,039	566	80	1,306	43
2年/元年	100	88	92	104	88	104

【JA全農あおもり調べ】

(注) シェア：(JA全農あおもり販売額÷県出荷額)×100